

社説

六萬方哩を超へ民衆四千七百萬の名

の機關としては現に海上に浮べる西洋形船のみにて五五千五百の噸數四十八万九千

樂亦少なからず
試に同胞四千七百万人の半を以て全く勞働

戦せしに過ぎずされば此の生産力を補充するは一人一日の労働時間四十分を首をて買

限りは國力を賄する太戰役に際して需用の
賄過するは自然の成行にして如何に景氣を

事々内地に於ける資本の狀態を察すれば、事
業の萎縮と共に活動の作用を失ひ空しく衰

に收めらるる金額を算し、既に要するに
の資本の活動する日は乃ち不景氣の歟
絶つの日なり此の資本を活動せしむるは

——新歸來者の談——

の暇なく退却せしかば該炭坑

將家極めて有徳なるが由來

夫として從事せしめ現に有客
太助氏の男なる貝島謙輔中

決して輪廻の邊滯を見るが如
白にして客も東遊の道に沿

る平壤無条件降伏協定に基
年間の交渉は、英米協定に
の交渉は、英米協定に

傳給のみにても拾萬圓に達す
該技師には其製炭額に對し歩
扣をも契約しあるを以て此
を解決せるは困難なる事

公召還する
照應

二月

爲め今日迄で生じ

連絡關係ありたる様

りたりと成人は

育國とならん
われつゝあな

高の存在、中間局
 成立し得りて
 れば同隊の下士以下は相變らず同衛命に寄
 り居り水た解散せし模様なしと云ふ

李徽善、山内は李啓壽、光陽は柳濟寛、金川は金勝芳、靈岩は趙果完、瑞山は李年

(二十二日) 特置員致
廢に關して、大小の民數百名會合し軍部に請願して撤廢せられ事を請ふと頻りに訴ふ

分に買入れ四年以來該糧は實に 萬三百餘
元の多きに上り居れば宮内府に移照して該

事久しく宜しく叙動すべきものあり現に此
 重臣は國難に際し國難に以て感泣を奏す
 來なるが如く

右横村の時は地方官が豫め各戸を販
賣し置き毎戸幾株を植しむるかを調ふ
べし

私林山より雖も官の承應を經たる後にあ
らざれば新伐する事を得ず
私林山にして其樹木所木をしたる時は
其の數により一様十本の數を以て新伐

外國人鐵道所用として私鉄を勸伐すと云ふも該工事擔任者にして中間之れを借受開會する事至り出席者定數

特別奨揚を與ふべき事
各洞には必ず場所を設けて民をして裁
會の善なり
●森林保護に就

鐵道會社々宅に一泊の上一昨廿五日午前
時十分發の列車にて來嶺せられたり

云ふにあり
●運輸組と汽船

●時計商業組合
に起因せり

昨日日本紙にて逸早く報導したる如く昨日午後二時草榮着の列車にて奉送せし公使は利便なり。草榮繁忙を極めつゝ、

目下店前改築中な
船

風の通りには夫人を待合せ上陸の機は確
 今日の御事にて歸館せらるべし亦同先人
 上陸意も時被み日一就に開船に樂玄仁
 昨日の風

なほしも午後三時定刻に
充たず多分は流會となり
るものなり

斗南獨唱

別項に記載の如く朝

▲眞の二提督請和を言ひ日の
由處分にし彼領を與へんとす

▲然らば百戰百敗は如何哉奉
故に或程度に勇戦後其名を思は

便電信出張所は昨今頗る
り▲支那町は舊正月にて

行列せしむると其差豈千万里な
廣告

町幸
朝日大
合きん印刻

東京 錦葉 名煙印
長崎 錦葉 名煙印
丁 錦葉 名煙印
日本 錦葉 名煙印
香港 錦葉 名煙印

▲然らば百戰百勝は如何故本來を爭ふべし
故に成敗度、男最後の名を思はず是故を顧
以て羞恥なきの男は亦人間衆の理乎
▲斯に我海軍に一大勢力を加へたる
陸隊は築地島に敵を迎へし津無對馬の海濱
にも配屬せりと勝て兜鬼に金棒とは是
▲援艦 村長三人東京華族會館にて朝野
紳の歡進を受く御前に援艦居停地ありを並
港に今何時の時、處に於て歡迎ありん
孤兒 救済を目的とする慈善會館を
に開き、すすめし彼の雛妓を放ちて、
行列せしむると其差數千萬里ならんや

